

家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 58

2017年5月15日発行

編集 筒井淳也（庶務委員・広報担当）

発行 日本家族社会学会事務局

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学社会学部 西野理子研究室

☎ 03-3945-7722

会長挨拶

石井クンツ昌子（日本家族社会学会会長／お茶の水女子大学）

第9期理事会は「国際化の加速」を課題としてスタートし、このテーマに沿った取組が進み始めています。まず第8期理事会において開始された『家族社会学研究』への英語論文の投稿数が着実に増えています。メルマガでは海外の学会大会申込案内や国際シンポジウム情報を増やすように努めています。そして、本年度の第27回大会シンポジウムでは日本学術会議との共催で、社会調査で捉える日本とアジアの家族の現状と変容についての報告と討論が予定されています。また、本大会では国際セッションの継続やポスターセッションの新設により国内外からの研究報告の機会を拡大します。ポスターセッションや自由報告等への申込締切は5月末ですので、奮ってご応募ください。

今後は本学会の国際化加速のために、若手研究者からの提案をお聞きする機会を持ちます。更に、英語研究論文執筆に関するセッション開催や国外の著名な研究者に学会大会で登壇していただくなども検討していきます。2018年7月には、世界社会学会議（ISA）のトロント大会が開催されますが、アブストラクト提出による応募申込期限は2017年9月末ですので、多くの本学会会員の研究成果が世界へ羽ばたいていくことを期待しています。

日本家族社会学会の国際化は会員の皆様のご協力なしには実現しません。京都大学で9月9・10日に開催される第27回大会時に多くの皆様にお会いし、本学会の国際化に関するご提案をお聞きできることを願っております。

目 次	
会長挨拶	1
日本家族社会学会第27回大会のご案内	2
理事会報告	3
各種委員会報告	4
研究会メンバー募集告知	8
事務局だより	10
会員異動	10
編集後記	11

日本家族社会学会第27回大会のご案内

落合恵美子（第27回大会実行委員長／京都大学）

2017年度の第27回日本家族社会学会大会を京都大学で開催いたします。会場は鴨川の東、吉田山の麓の京都大学吉田キャンパスの文学部校舎、日程は9月9日（土）・10日（日）を予定しております。近年外国人観光客が急増しており、宿泊の予約が難しいかもしれませんので、是非とも早めにお手配ください。日本とアジアの家族の実証分析がテーマの大会シンポジウムは、日本学術会議と共催の公開シンポジウムとして開催しますので、非会員の皆様にもご案内くださいますようお願いいたします。実行委員は、本学の岩井八郎会員（教育学研究科）、落合（文学研究科）と、筒井淳也会員（立命館大学）、伊達平和会員（滋賀大学）の計4人で担当いたします。実行委員一同、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。（なお、当初の実行委員に含まれていた柴田悠会員（本学人間・環境学研究科）は、育児休業取得予定のため担当から外れることとなりました。育児休業を取得する准教授以上の男性教員は本学3人目です。本学会員らしい事由とお認めいただきたく存じます。）



1. 会期：2017年9月9日（土）～10日（日）
2. 会場：京都大学 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 *最寄駅は京阪出町柳駅ですが、他にも地下鉄烏丸線今出川駅からバス、JR京都駅もしくは阪急河原町駅からバス等、何通りもの交通手段がありますので、詳細は <https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/about/access/> をご覧ください。交通路の詳細および大学周辺地図は、大会ウェブサイトおよび大会ニュースNo.2でお知らせします。
3. 参加費等：大会参加費、懇親会費は以下の通りです。事前納付は郵便振替でもクレジットカードでも金額は変わりません。

	大会参加費		懇親会費	
	事前納付	当日払い	事前納付	当日払い
一般	3,500	4,500	3,500	4,500
学生・減額会員	2,500	3,000	2,500	3,000

4. 昼食：大会の受付で、キャンパス内および周辺の食事処の地図を配布いたします。
5. 宿泊：宿泊につきましては、各自でご手配ください。
6. 託児サービス：会場に隣接した建物の保育支援室を託児室として使用し、業者の出張託児サービスを準備します。利用料は、1人1日2,000円、半日1,000円を予定しています。詳細は7月中旬を目処に大会ウェブサイトに掲載し、申し込み受付を開始します。

7. 大会に関するお問い合わせ：〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町 京都大学文学研究科社会学研究室内 日本家族社会学会第27回大会実行委員会事務局
8. E-mail: jsfs-taikai@bunken.co.jp まで。ただし、ウェブでの大会申込み、参加登録、事前納付などについてのお問い合わせは、以下の大会ヘルプデスクにお願いいたします。〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター FAX: 03-3368-2827 / E-mail: jsfs-desk@bunken.co.jp

理事会報告

2017年度第2回理事会（第9期第3回会合）議事録（抄）

日 時：2017年3月26日（日）13:30～17:40

会 場：お茶の水女子大学本館 315 社会学資料室

出席者：石井、池岡、落合、木戸、嶋崎、下夷、白波瀬、田間、筒井、松田、宮坂、山根、米村、西野（敬称略）

欠席者：蘭、田淵、大和（敬称略、委任状あり）

【報告事項】 各種委員会報告をご覧ください

【審議事項】

1 社会学系コンソーシアム担当者の選出について

石井会長と白波瀬理事が担当する予定であったが、白波瀬理事が他の学会の評議員で兼任できなかったため、代わって嶋崎理事の選出が追認された。前担当の宮本会員から、1月末をもって交代した。

2 第27回大会実行委員会の委員について

柴田悠会員、筒井淳也理事、伊達平和会員を実行委員に追加することが追認された。

3 メルマガ掲載の対応原則について

以下の事項を追認した。

- ・過去の著作情報の掲載希望があった場合、「近著」は「過去1年程度以内」とすること。
- ・名簿に掲載されている範囲の住所等の個人情報は、メルマガに掲載せず、訂正情報はレターに掲載する。
- ・メルマガの末尾にガイドライン（別紙）を掲載する。

4 日本学術振興会賞 受賞候補者の推薦

学会からの推薦はしない。

5 会費・大会参加費の振込手数料について

- ・会費の郵便振込の手数料を学会負担にする案を検討し、現行維持となった。
- ・大会参加費の事前振り込み手数料を学会負担にする案を検討し、現行維持となった。
- ・クレジットカード決済（4-6月の3ヶ月運用）において、パスワードをかけることを条件として、メール添付を可とする方式に変更することが承認された。

6 機関誌『家族社会学研究』等の事務センター倉庫保管について

提案の処分案が承認された。

7 財務方式について

通帳と残額が合致する方式を採用することになった。「委員会繰越金」を明示し、会計報告から残金を除き、付表をつけることが申し合わされた。

8 第8期引継ぎ文書について

引継ぎ文書の扱いは、各委員会委員長が決めることが承認された。

9 第27回大会について

- ・基本的なプログラム編成案が承認された。
- ・要旨集は配布する。28回大会以降に、要旨集の廃止・有償配布を検討する。

10 投稿規程の改定について

英語論文導入にともなう投稿規程の改訂について引き続き検討することになった。

11 学会賞委員会の細則制定について

・細則制定のスケジュールを承認。推薦手続きの簡略化を含め、細則の詳細について議論が行われた。

- ・HPから細則は削除する。HPに掲載すべき情報の精査を進める。

12 機関誌『家族社会学研究』掲載論文のJ-STAGE上での公開促進について

掲載論文を刊行後1年を待たずにJ-STAGEにて電子公開が可能かどうかについて議論した。論文の範囲や契約を含め、さらに検討することになった。

13 「国際化加速」への取り組みについて

会長から、メルマガ、学会大会への諸提案、若手研究者からのヒアリングをしていきたいとの意向が表明された。研究活動委員会からも、28回と29回大会でワークショップを設置するなど検討したいという案が出された。

14 その他

・若手学術振興会のネットワーク登録の依頼があり、研究活動委員会から代表者を出すことになった。

以上

各種委員会報告

編集委員会

編集委員会では、年2回刊行の『家族社会学研究』の編集を東と西の編集委員会の二元体制で行っています。昨年9月から東側が編集作業を担当した第29巻第1号が完成し、このニューズレターとともにみなさまのお手元にお届けすることができました。引き続き、今度は西側の委員会が、10月末刊行予定の第29巻第2号の編集作業を行っています。

今期第9期の編集委員会としては、前期から今期理事会に引き継がれた「国際化」への取り組みの加速を課題の一つとして掲げています。具体的には、前期編集委員会から受け付けを開始した英語投稿論文の掲載に向けた取り組み、国際セッション等の積極的な掲載に取り組んでいきたいと考えています。

日本語・英語双方のご投稿を心よりお待ちしております。そして、引き続き会員の皆さままで学会誌を支えてくださいますようお願い申し上げます。

(米村千代・千葉大学)

研究活動委員会

1. 第27回日本家族社会学会大会（2017年9月9日（土）・10日（日））について

研究活動委員会は、京都大学で開催される大会に向けて準備を進めています。3月6日には、第27回大会オフィシャルサイトを開設しました(<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2017/index.html>)。このサイトへは、学会のウェブサイトの「学会大会／研究活動」から入ることができます。また、4月初旬には会員の皆様に第27回日本家族社会学会大会ニュース No.1をお届けしました。

今年度は、新たにポスターセッション（英語可）を設けます。展示は大会2日目の終日行いますので、より多く方々の目に触れることが可能です。また、口頭で報告を行う従来からの自由報告と異なり、限られたスペース（A1 縦置）でのプレゼンテーションの工夫と、質疑時間（1時間）に立ち寄ってくださる方々との自由な応答が楽しめます。国際学会ではよくある形式です。ぜひふるって応募してください。

報告者公募型テーマセッションの企画は、3月に締切り、「人口変動と家族変動：その関係とメカニズムの検討」（オーガナイザー：白波瀬佐和子）が採択されました。企画全体公募型テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジなどの企画申請は、4月27日に締切りました。自由報告・ポスターセッション・報告者公募型テーマセッションの報告申込みは、報告要旨原稿とともに5月31日締切です。上記の「大会オフィシャルサイト」にてお申し込みください。その際にはマイページと同じID（会員番号）とパスワードが必要です。皆様からのお申込みをお待ちしています。

大会シンポジウムは「日本とアジアの家族—社会調査で捉える現状と変容」と題し、日本学術会議社会学委員会社会理論部会と共催で行います。NFRJ・EASS・CAFSという3つの大きな調査を一堂に会して討論する貴重な機会です。日本学術会議からのご挨拶は渡辺秀樹氏（帝京大学）、報告者は、田淵六郎氏（上智大学）、宍戸邦章氏（大阪商業大学）、岩井八郎氏（京都大学）、討論者は佐藤嘉倫氏（東北大学・日本学術会議）、神原文子氏（神戸学院大学）です。どうぞ、ご期待ください。

大会参加費は例年と同じく、一般（事前）3,500円、学生（事前）2,500円、一般（当日）4,500円、学生（当日）3,000円です。大会申込みは、7月上旬から上記ウェブサイトが可能となります。また、大会プログラムも会員の方々に7月に送付予定です。

2. 大会要旨集

昨年度の大会と同じく、印刷物と電子媒体（大会オフィシャルサイトにて大会10日前に公開予定）を併用します。

3. 日本学術会議の若手科学者ネットワーク分科会

本学会として、第9期研活委員会理事委員4人の推薦により余田翔平氏（国立社会保障・人口問題研究所）に、新しく参加していただきます。若手の方々の活躍を期待します。

(田間泰子・大阪府立大学)

学会賞委員会

今期理事会から独立委員会として新設された学会賞委員会は、2年目に新設の「奨励著書賞」、3年目に従来からある「奨励論文賞」の選考を行います。1年目の現在は、委員会の具体的な運営を定めた「日本家族社会学会賞規程に関わる細則」の整備に取り組んでいます。この細則は、理事会の議を経て9月の京都大学での学会大会時の総会でご報告いたします。それにもとづいて、年が明けた2018年1月に「奨励著書賞」の推薦を受け付けます。軌道に乗れば、「奨励論文賞」と同様に3年おきに選考を行いますから、前回の対象期間以降の「当該3年間」の著書が対象になりますが、第1回目は選考対象期間を3年間より少し長くとろうという方向で検討しています。選考対象本は自薦と他薦によって募集しますから、該当する著書を自ら刊行された方、あるいはこれぞと思う推薦したい著書をお考えの方は、年明け以降の受付期間にふるってご推薦ください。詳しくは、学会大会終了後、10月ごろから学会ホームページやニュースレター、メルマガ等で募集の告知を行いますので、そちらの方をご覧ください。

(池岡義孝・早稲田大学)

庶務委員会・事務局

1. 会勢と会員の異動について

2017年3月16日時点の会員数は726名（一般会員576、学生会員96、減額申請適用会員52、賛助会員1、会費免除会員1）です。前回ニュースレター報告の2016年10月1日以降の会員異動は、新規入会2名（一般会員1、学生会員1）でした。年度末に7名（一般会員5、学生会員1、賛助会員1）が退会の予定です。

2. 会費納入状況について

3月16日時点の会費納入率は89.9%です。新年度の会費納入の依頼がお手元に届いていることと存じます。すみやかな会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。なお、会費納入は可能な限り、郵便振込みないしは銀行振込みをご利用いただけますと幸いです（クレジットカードの場合、利用料が事務経費の負担になります）。また、カード決済が可能な期間は4-6月ですので、利用申し込みを含め（パスワードをかけていることを条件にメールで送信可能になりました）、早めにご対応をお願いします。

3. 会費の減額申請について

常勤職にない会員の方は会費減額申請を行うことができますが、65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。承認の連絡を受けてから会費をお振り込みください。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイトの「お知らせ/人事公募」>「会費減額申請」(http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/not_4.html)に掲載されています。65歳以上の会員の方

は、一度承認されれば以後手続きの必要はありません。

4. 会費の免除について

昨年総会で、罹災にかかる会費免除の規程が加わりました。不慮の災害にあった会員は、被災証明を添えてお申し出ただけでしたら、直近の会費が1年間に限り免除されます。遠慮なく事務局までお申し出ください。

(西野理子・東洋大学)

社会学系コンソーシアム評議員

今期理事会では、社会学系コンソーシアム評議員を石井クンツ会長と嶋崎が担当し、さらに前任者からの交代で、嶋崎がコンソーシアム理事を引き継ぎました。よろしくお願いいたします。

2016年度活動や2017年度予定などを記載した『JCSS Newsletter』No.10が3月に発行されました。コンソーシアム website に掲載されておりますので、ぜひ下記 URL からご覧ください (<http://www.socconso.com/>)。また website には、参加学協会の学会大会などの情報も掲載されていますので、合わせてご活用ください。コンソーシアムの活動についてご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。

(嶋崎尚子・早稲田大学)

全国家族調査(NFRJ)委員会

1. NFRJ18 に向けた研究会活動

2017年度から科学研究費補助を受け、過去のニューズレターで予告しておりました通り、2018年度に実施予定のNFRJ18に向けて「NFRJ18研究会」(<http://nfrj.org/nfrj18ken.htm>)を立ち上げます。研究会参加ご希望の会員は、下記に掲載した募集告知をご覧のうえお申し込みください。名称を「研究会」としますが、調査実施とデータ整備までは「実行委員会」を兼ねた活動となります。学会員はどなたでも研究会に入ることができます。

また、この研究会と並行して、質的な家族調査を行う研究会である「全国家族調査質的調査研究会」も立ち上げられます。こちらも下記の募集告知をご覧のうえお申し込みください。

2. NFRJ データを用いた研究会活動

前期より、NFRJ-08 パネル研究会、家族社会学パネル研究会、NFRJ18 準備研究会を開催してきました。今後も研究会活動を行ってまいりますので、ご関心のある方はNFRJ ウェブサイトをご覧の上、ご参加ください (<http://nfrj.org/>)。これまでの研究会の成果として、筒井・水落・保田編『パネルデータの調査と分析・入門』(ナカニシヤ出版)が刊行されました。

3. データ公開および研究成果の社会的還元

NFRJ のこれまでのデータ (NFRJ98、NFRJ-S01、NFRJ03、NFRJ08 等) は、東京大学 SSJ データアーカイブや ICPSR を通して公開されています。ぜひ研究にご活用ください。また、学会員が指導する学生の卒業論文や授業・セミナーでの利用をお考えの方は、NFRJ 委員会事務局までお問い合わせください。NFRJ の最新情報は、ウェブサイトをご覧ください (<http://nfrj.org/>)。

各種研究会への参加、NFRJ18 研究会への参加、データ利用などについて、ご不明な点、ご意見などは、当面の間、office@nfrj.org までお送りください。

(田淵六郎・上智大学)

募集告知

NFRJ18 (第4回全国家族調査) 研究会 メンバー募集

日本家族社会学会全国家族調査 (NFRJ) 委員会では、2017 年 4 月より、NFRJ18 研究会を開始いたします。家族社会学会の会員であれば、どなたでも参加することができます (大学院生を含みます)。

以下の要領で申し込みを受け付けますので、関心のある方はぜひご応募ください。家族の経験的な研究、計量的な研究に関心のある会員の参加をお待ちしています。

NFRJ18 研究会の活動内容は下記の通りです。

【調査実施段階】

・科学研究費の助成を受けたプロジェクトとして行われる NFRJ18 実査 (2019 年 1 月実施予定) の調査設計、調査票作成、データ整備などにかかる研究活動に参加します。分担して業務を行っていただくことがありますのでご了解ください。

【調査実施後】

・メンバーの一部は、NFRJ18 第 1 次報告書 (調査概要と簡単な集計のみを掲載するもの) の作成に協力します。

・すべてのメンバーは、自分の関心に基づいて NFRJ18 データを用いた分析を行います。その経過を研究会 (年間 3 回程度を予定) で報告すること、最終的にデータを用いた論文を提出していただくことが義務となります (2021 年 1 月末ころを予定)。

・提出された論文は、NFRJ18 第 2 次報告書として日本家族社会学会全国家族調査委員会より刊行される予定です (2021 年 3 月末ころを予定)。

・発表された成果はかならず研究会に提出していただきます。

・提出される論文は、NFRJ18 を用いた既発表の投稿論文などの再録でも認められます。

・研究会で報告をされる場合には、遠方の会員には予算の範囲内で旅費を補助いたします。なお、これら研究会の費用は科学研究費などからの助成をうけて行われます。

【参加申し込み】

NFRJ ウェブサイトにある NFRJ18 研究会のウェブページ (上述) の申込書フォームにご記入のうえ、2017 年 5 月末日までにメール (office@nfrj.org) にてお申し込みください。今年度の入会はその時点でいったん締め切らせていただきます (大学院生ならびに今年度新入会員の場合を除く)。来年度 4 月に改めて最終の応募を行う予定です。

研究会についてのお問い合わせにも応じますので、お気軽にお知らせください。

NFRJ 委員会委員長・NFRJ18 研究会代表 田淵六郎（上智大学）

NFRJ 委員・NFRJ18 研究会事務局 田中慶子（家計経済研究所）

全国家族調査 質的調査研究会 メンバー募集

「全国家族調査質的調査研究会」は、2019 年に実査が予定されている第 4 回全国家族調査 (NFRJ18) と連動するかたちで、質的調査の計画と実施およびデータの分析、さらには、公共利用のための質的データの作成とアーカイブ化を遂行するための研究会です。また、これらの活動にメンバーが協力して取り組むことを通じて、質的調査に携わる会員の研究交流の活性化および全体的な研究水準の向上を図ることも目的としています。

本研究会は、すでに 2016 年度の総会で設立が承認されていますが、2019 年度に予定されている実査の開始に向けて、新たに研究会に参加してくださる会員を募集します。日本家族社会学会の会員で、質的調査に携わることに関心のある方であれば、どなたでもご参加いただけますので、NFRJ ウェブサイト (<http://nfrj.org/>) にある全国家族調査質的調査研究会のページ(<http://nfrj.org/nfrjqualwg.htm>)からダウンロードできる申込書フォームにご記入のうえ、NFRJ 委員会事務局 (office@nfrj.org) にメールでご連絡ください。なお、申し込みの期限は、2017 年 5 月末日とさせていただきます。

■活動期間

2017 年度～2020 年度（予定）

（活動資金：科学研究費補助金基盤（B）「現代家族の過程と実践をめぐる質的研究に対する組織的取り組み」）

■活動内容

・研究会合

2017 年度から、年に 3 回程度の研究会合を開いて、質的調査の計画・立案、実査の経過、データの分析結果、公共利用のためデータの作成データの作成などについて、研究会メンバーによる報告およびメンバー間での議論を行います。

・協働による質的調査の実施

NFRJ18 の回答者のうち、質的調査に協力の意思があると回答されたかたを対象として、インタビュー調査あるいは参与観察を実施します（2019 年度を予定）。

・成果報告と二次分析用データ作成

実査の終了後は、収集したデータの分析、調査報告書の作成、公共利用のためデータの作成を行います（2020 年度以降を予定）。

■メンバーシップに伴う義務などについて

上記の通り、本研究会は、質的調査の実施からデータの公開までを遂行することを主な目的としています。このため、研究会への参加にあたっては、実査への参加、公共利用のため

のデータの作成、調査報告書への寄稿が義務として課されます。また、予算の都合上、場合によっては、旅費などの調査にかかわる経費が十分に支出できないことも想定されます。これらの点について、あらかじめご了解ください。

研究会代表 木戸功（札幌学院大学人文学部）

副代表 松木洋人（大阪市立大学大学院生活科学研究科）

事務局だより

第9期が発足して半年余がたちました。まずは、学会がつつがなく運営されていくよう努めてまいります。そして、石井クンツ会長のもとで「国際化の加速」に向けて、皆様方のお知恵を拝借しながら実現に取り組んでいきます。ご提案、ご意見、情報などありましたら、遠慮なく事務局にお伝えください。

会勢欄で触れましたが、長く賛助会員になっていただいていた機関が年度末をもって退会されることになりました。新たに賛助会員になっていただける企業、団体などありましたら、ご推薦していただけますよう、お力添えをお願いいたします。

（西野理子・事務局長、東洋大学）

会員異動

（略）

編集後記

学会事務局と会員のみなさまを結ぶメディアには、このニュースレターのほか、学会ウェブサイト(<http://www.wdc-jp.com/jsfs/index.html>)と、メールマガジンがあります。メールマガジンについては、約5.5%が不達になっています。「そういえば最近家族社会学会からメールマガジンが届いていないな」という方は、学会に登録しているメールアドレスが正しいかどうかを、学会ウェブサイトの会員専用ページからご確認ください。

（筒井淳也・立命館大学）